

# Special Thanks! ご愛読、ありがとうございました。 『ろんちよ』7年間の歩み



**創刊号～6号**  
(2004年春～2005年夏)

**2004年 No.1**



『ろんちよ』の雑誌名は、初代編集スタッフだった大学生の発案。「議論」の「ろん」と「主張」の「ちよ」からユニークな名前が生まれました。初めての著名人インタビューは、静岡市出身の漫画家、しりあがり寿さん。当時は、静岡市内の大学生が毎号編集に参加。学生ならではの初々しい?企画が盛りだくさんでした。

**No.2**



世直したい気持ちを、  
みんなどこかに持っている。  
(しりあがり寿さん)

**2005年**

**No.5**



**No.4**



**No.3**



**No.6**



**No.7**



**7号～12号**  
(2005年秋～2006年冬)



巻頭の著名人インタビューが定着した時期。各界の大物のみなさんが、編集部大学生の質問に、ていねいに答えてくださったことが印象に残っています。各々の言葉は、今でも頷けるものばかり。それにしても、著名人はなぜか毎号男性ばかり??

**No.12**



「**新聞が、僕の  
ものを考える力  
の原点**」  
になっている。  
(見城徹さん)

**マイナスをプラスに転化する。  
その過程が面白い。**  
(みうらじゅんさん)

**No.11**



情報の真偽を  
判断するのは自分。  
マスコミの情報を  
鵜呑みにするな。  
(弘兼憲史さん)

**No.8**



環境問題で取り組む相手は、  
自然ではなく、人間だ。  
(野口健さん)

**2006年**

**No.9**



**No.10**

